

広報

おまぐ

2019

11

No.178



今年も 1年ありがとう

NEXT きらめき★

きのと つばさ
城ノ戸 翼 さん (八幡浜工業高等学校3年、白滝出身)

第16回 WRO Japan 2019 in 西宮 決勝大会
レギュラーカテゴリー (エキスパート競技) 高校生部門 優勝
WRO 2019 ハンガリー 国際大会 出場決定



大会は2人または3人がチームになって、自立走行するプログラムをロボットに組み込み、課題解決の正確さとスピードを競います。城ノ戸さんは「私たちの強みは、2人ともロボット製作とプログラミングを担っていることです。それぞれのアイデアを集結し、大会に挑みました。全国大会での優勝は、ひとつの目標であり、とてもうれしかったです」と大会を振り返りました。

世界大会に向け、城ノ戸さんはロボットの改良に取り組んでいます。「世界一になるためには、正確性を保ちつつ、スピードを今よりも上げる必要があります。また、大会当日には『サプライズルール』が追加されます。想定練習を重ね、どのようなルールにも対応できるようにしたいです」と意気込みを話しました。

ロボット製作とプログラミング技術を競う「WRO (ワールド・ロボット・オリンピック)」の全国大会において、八幡浜工業高等学校3年の城ノ戸さんのチームが優勝し、11月にハンガリーで開催される国際大会への出場権を手に入れました。

11月の納税など 納期限は12月2日(月)です。

税 別	11月	12月	1月	2月
市 県 民 税			4期	
固 定 資 産 税		3期		4期
軽 自 動 車 税				
国民健康保険税	5期	6期	7期	8期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。
今年度から市県民税と固定資産税が4期納付になります。

現在の大洲

	人の動き(先月比)	交通事故(昨年同期)
人 口	42,804人 (- 56)	件 数 48件(61件)
男	20,444人 (- 28)	死 者 0人(0人)
女	22,360人 (- 28)	負 傷 者 53人(82人)
世帯数	19,865世帯(- 14)	

(2019年9月末現在)

CONTENTS 目次

2 ページ	NEXTきらめき・今月の表紙
3 ページ～	(特集) きらめく頂点を目指して
8 ページ～	おおずニュース
10 ページ～	シリーズ
13 ページ～	おしらせピックアップ
22 ページ～	情報ひろば
24 ページ	集まれ0級若モン
25 ページ	図書館
26 ページ～	保健センター・各種相談ガイド
28 ページ	がんばるひと (長浜フォークソング愛好会)

今月の表紙



今年のおかいシーズンが終了し、活躍した鶴の労をねぎらう鶴感謝祭が、10月2日(水)、肱北河原で行われました。

今年で62年目を迎えた大洲のおかいは、3,627人に楽しんでいただきました。

参加した関係者らは、来年のおかいのさらなる盛況を祈願し、鶴にアユを与えました。

(特集) きらめく頂点を目指して

スポーツの秋です。みなさんは、どのスポーツが好きですか。来年の東京オリンピック開催に向け、全国ではさまざまな大会が開かれるなど、スポーツへの関心が高まっています。

今月号では、大洲市出身の2人の若きアスリートを紹介します。2人を知る人も知らない人も、全国の舞台で戦っている勇姿を応援してください。



サッカー

東 俊希 さん

サンフレッチェ広島F.C

U-15から5年連続で日本代表に招集される。昨年開催されたU-19アジア選手権では、準々決勝のインドネシア戦でミドルシュートを決めるなど、U-20ワールドカップへの出場権獲得に貢献した。



ビーチバレー

大本 真代 さん

松山東雲女子大学ビーチバレー部

大学ビーチバレーボールの日本一を決める「第31回全日本ビーチバレーボール大学選手権大会」に昨年に引き続き出場。全国から強豪チームが集まる中、熱戦を勝ち抜き、悲願の初優勝を果たす。

FIFA U-20 ワールドカップ2019 ポーランド大会 出場

ひがし 東 俊 希 さん

(中村出身・サンフレッチェ広島F.C.)

主な代表歴

平成27年 (2015年)	U-15日本代表 AFC U-16選手権インド2016 予選
平成28年 (2016年)	U-16日本代表 COPA UC 2016 (チリ遠征)
平成29年 (2017年)	U-17日本代表 国際親善試合 (スペイン遠征)
平成30年 (2018年)	U-18日本代表 第24回リスボン国際トーナメントU18 (ポルトガル遠征)
	U-19日本代表 AFC U-19選手権インドネシア2018 スペイン・インドネシア・メキシコ遠征
令和元年 (2019年)	U-20日本代表 FIFA U-20ワールドカップ2019ポーランド大会



サンフレッチェ広島F.Cの東選手



喜多サッカースポーツ少年団時代の東選手

サッカーとの出会い

保育園に通っていたとき、友達と遊びで始めたのが私とサッカーの出会いです。その後、小学校1年から喜多サッカースポーツ少年団に入団しました。中学では、松山市の「FCゼブラ」に入団しました。

中学卒業後は、Jリーグ・サンフレッチェ広島F.Cの育成組織であるユースのクラブに入団したため、広島県の高校へ進学しました。

地元を離れて広島へ

中学のときに、複数のチームからオファーがあり、その中でサッカーに集中できる環境がそろっていると選んだサンフレッチェ広島



サンフレッチェ広島F.Cユース時代の東選手

F.Cユースに思い切つて入団を決めました。

また、周りにレベルの高い選手がいる環境でサッカーに取り組みたいと感じたのも理由のひとつです。広島ユースには、全国から選手が集まっています。トップチームのスタッフもそろっているなど、私にとって成長できる環境でした。

好きな言葉

特に好きという言葉はありませんが、ひとつ上げるとしたら、「気持ちには引力がある」です。

この言葉は、広島ユースで試合をするときに、横断幕として掲げていた言葉です。勝ちたいと思う気持ちは、チームの団結にもつながり、勝利を引き寄せてくれると信じています。

印象に残っている試合

いちばん印象に残っている試合は、広島ユース時代の「高円宮杯 JFA U-18 サッカープレミアアマリーグ2018ファイナル」の一戦です。18歳以下のユース日本一をかけた試合で、私にとつてユースでの最後の試合でもありました。先制点をアシストし、鹿島アントラーズユースに2-1で勝利し、優勝を飾ることができました。

プレーする上で心にかけていること

常に「遠慮しない」ということを意識しています。フィールド上では、年上、年下といった年齢は関係ありません。自分のプレーを貫き、自分の良さを最大限発揮できるようにしています。

Jリーグの試合でベンチに入ることができるのは18人です。試合ごとに、当日ベンチ入りメンバーが決められます。その日のコンディションや、他の試合での結果を勘案して決定されますが、遠慮したようなプレーを見せるとすぐにメンバーから外されます。外されると本当に悔しいです。

U-20 W杯2019の感想

世界と戦う中で、自分の実力がどのくらい通用するかワクワクしていました。実際に試合に出場して、通用する部分が多く見つかり、自分の中で自信につながりました。この大会の4戦のうち、私は2試合にフル出場、1試合に途中出場しましたが、4戦すべてに出場できなかったことが悔しさとして残りました。

日本代表として

日本でサッカーをしている人は、私を含めてみんな日本代表に選ばれたいと考えていると思います。

す。実力のある選手は、20歳以下であってもアンダー20には出場せず、A代表（サッカー日本代表における最上位カテゴリー）に招集されています。今後は、A代表として、日の丸を背負う選手になりたいです。

将来は、ヨーロッパのチームに移籍して、よりレベルの高い環境でプレーしてみたいです。今はまだその時期ではないので、少しずつ確実にステップアップしていきたいです。



FIFA U-20 ワールドカップ2019での一戦



AFCチャンピオンズリーグの一戦
(広島ーメルボルン・ビクトリー)

これからの目標

サンフレッチェ広島F.CでJリーグ優勝・ACL（アジアチャンピオンズリーグ）優勝を目指したいです。チームが優勝するときには、その中心に自分がいるようにしたいです。

私のアピールポイントは、キックの精度です。サイドからのクロスなど、チャンスマイクには自信があります。私は左利きなので、他の選手とは違った独特な動きもできます。

これから、さらに自分の特長を伸ばせるよう、集中して練習に取り組みたいです。また、サッカーに専念することができると状況にあることに感謝し、子どもたちに夢を与えるプレーヤーになりたいです。



全日本ビーチバレー大学男女選手権大会 優勝
(左：武田ひかりさん 右：大本真代さん)

第31回全日本ビーチバレーボール 優勝 大学男女選手権大会

お お も と ま よ 大本 真代 さん

(長浜町衛生出身・松山東雲女子大学ビーチバレー部3年)

主な代表歴

平成30年 (2018年)	第32回ビーチバレージャパン愛媛県大会 準優勝 (大本・武田ペア)
	第1回全日本ビーチバレーボールU-23男女選抜優勝大会 第4位 (大本・武田ペア)
	第30回全日本ビーチバレーボール大学男女選手権大会 第3位 (大本・武田ペア)
平成31年・ 令和元年 (2019年)	第20回会長杯OSAKA BEACH OPEN 第3位 (大本・武田ペア)
	ジャパンビーチバレーボールツアー 2019 U-23熊野大会 優勝 (大本・松尾ペア)
	JSVサテライト2019 U-23神戸大会 優勝 (大本・松尾ペア)
	第31回全日本ビーチバレーボール大学男女選手権大会 優勝 (大本・武田ペア)

ビーチバレーとの出会い

私は、小学5年生から高校卒業まで、いわゆるインドアのバレーボールに励んでいました。高校3年生の時には、ビーチバレーのジュニア選手権大会に挑戦し、愛媛県予選で優勝、全国大会に出場しました。その後、大学入学時に、監督の佐伯さんから入部を勧められ、本格的にビーチバレーを始めました。

ビーチバレーを始めて

最初の頃は辞めようかと思うくらいに苦痛でした。インドアのバレーとのルールや制度、環境の違いに慣れることができず、とても苦労しました。しかし、2年目の終



ビーチバレーの試合の様子
(スパイクしているのが大本さん)
足場は悪く、天候にも左右されやすい

わり頃から、ようやく楽しいと思えるようになりました。

ビーチバレーの難しさ

ビーチバレーの試合は、ほとんどが屋外の砂浜で行われます。そのため、砂の深さ・硬さ、風の向きなど、試合によって環境が大きく異なります。そのような環境面によって試合が大きく左右される点が、ビーチバレーの難しいところだと思っています。

試合に勝つためには

ビーチバレーは、2人1組で試合に臨みます。勝つためには、ペアとの息を合わせ、コートで2人でカバーする必要があります。声



松山東雲女子大学・
松山東雲短期大学
ビーチバレーボール部

監督 ^{さいき}佐伯 ^{みか}美香 さん

武田・大本の2人は、性格が対照的なペアでした。ビーチバレーにおいて、ペアの相性は非常に重要です。2人は、その対照的な性格を生かし、持ちつ持たれつのかつ関係を築いていました。

2人は昨年の大学選手権大会で3位に終わり、今年にはリベンジの気持ちで試合に臨みました。挑戦者として、コツコツ練習を重ねた結果が優勝できた要因だと思っています。

2人のように全国で活躍する選手が、ここ愛媛県からもっと増えるよう、ビーチバレーの振興に取り組みたいです。



松山東雲女子大学
ビーチバレーボール部 4年

武田 ひかり さん

大本さんは、野村高校バレー部の後輩であり、共に苦勞を乗り越えてきました。大会で優勝できたのも、こうした長い付き合いのもと、心が通じ合っていたからだと思っています。試合では、監督の指示により、自分たちで作戦を考えます。ペアとのつながりの先に何ができるか、2人で考えて試合に臨んでいました。

現在は、最後の大会も終え、後輩にビーチバレーを教えています。自分に続いて、活躍してくれる選手が増えてほしいです。



試合中、得点して声をかけ合う2人
(左：大本真代さん 右：武田ひかりさん)

をかけ合い、ペアを信頼して試合に臨んでいます。

印象に残っている試合

優勝した大学選手権大会の直前に参加したU-23男女選抜優勝大会での試合です。勝てるだろうと慢心していた部分があったのかもしれない。決勝トーナメントの1回戦で接戦の末、破れてしまいました。この敗戦は、私たちの気を引き締め、次の大会への士気を高めました。この敗戦がなければ、大学選手権大会の優勝もなかったかもしれません。

これからの目標

来年も大学選手権大会に出場し、連覇を狙いたいです。私は、風を読む力が弱いので、克服するために、屋外での練習に力を入れていきたいです。

大洲の子どもたちにひとこと

愛媛県には、私たちがいつも活動している屋内ビーチバレーコートがあります。このコートでは、定期的にイベントが行われているので、興味のある学生のみなさんは、参加してビーチバレーの魅力を知ってほしいです。